

令和元年度 大阪府立吹田高校 学校教育自己診断 (生徒・保護者) 集計結果の分析と 今後の取り組み

【はじめに】

今年度も、生徒並びに保護者の皆様のご意見を反映し、より良い学校運営に資するため、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中にも関わりませず、概ね7割の保護者の皆様からご回答をいただきました。

その集計結果と今後の取組みについてまとめましたので、お届けいたします。

【資料の見方】

吹田高校では、他の大阪府立の高等学校と同じく年度当初に「学校経営計画」を策定し、その実現に向けて、教職員が力を合わせ、学校教育に取り組んでいます。

そこで、今年度の学校教育自己診断の結果等につきましても、その「学校経営計画」とリンクした形で整理しました。

*「学校経営計画」は本校のホームページ（以降、HPと記します）に掲載しておりますので、あわせてご覧ください

本資料の見方は、以下の通りです。

- ① 【「学校経営計画」の今年度の重点目標】
- ② 【その項目に関わる質問とアンケート集計結果】
- ③ 【アンケート結果に対する学校の受け止め方（分析）】
- ④ 【来年度以降の指導の方向性（対応）】

1 遅刻・頭髪・登下校時のマナー指導

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
1	本校では、遅刻居残り指導などを通して、遅刻をしないように意識を高めてほしいと考えています。あなたは、毎朝遅刻をしないように意識をしていますか。 (全学年 肯定的回答率平均 95.1%)	1年	82.7%	14.0%	1.8%	1.5%	96.7%
		2年	74.7%	19.9%	1.9%	3.4%	94.6%
		3年	78.2%	16.0%	2.1%	3.8%	94.1%
2	本校では、交通マナーの向上のため登下校時の安全指導や交通安全講習会などを行っています。あなたは登下校時に、交通マナーを守るように努めていますか。 (全学年 肯定的回答率平均 94.4%)	1年	63.9%	30.8%	4.1%	1.1%	94.7%
		2年	63.5%	31.5%	2.7%	2.3%	95.0%
		3年	61.6%	31.8%	4.1%	2.5%	93.4%

【学校の受け止め方（分析）】

質問1に対して、全学年での肯定的な回答が95.1%、否定的な回答が4.9%となりました。多くの生徒が、遅刻をしないための意識を持って行動してくれていることがうかがえ、遅刻の回数も大幅に減っています。

基本的には現在の指導を継続してまいります。遅刻指導がなくても時間を守るという当たり前のことが主体的にできるようになるのがめざすところです。

質問2につきましても、全学年での肯定的な回答が94.4%と、多くの生徒が“交通マナーを守る意識”を持って行動してくれていることがうかがえます。一方で、意識の低い生徒もいるため、登校指導の範囲を広げ、下校指導も行い、交通違反を繰り返す生徒には自転車通学を禁止にするという一昨年度に始めた指導を継続していきます。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

年々遅刻が減少し、交通マナーも数年前に比べて明らかによくなっています。

身だしなみの指導についても、ピアス指導、スカート指導で一定の成果を上げています。昨年度の2学期から始めている化粧指導は「指導をされ、ペナルティーを課されるから」ではなく「自分の成長」や「周りへの迷惑」を考えて生徒が主体的に守っていけるように働きかけていきます。

めざすところは「じっくりと生徒と話す指導」であり、「生徒自身が自らを律することができる学校」です。このことを念頭に置きつつ、生徒の現状に合った指導を続けていく必要があります。

人に言われなくてもTPOに応じた高校生らしい服装や行動ができるように、また、その日々の取組みが、希望する自己実現・進路実現につながっていくように、生徒の自覚ある行動と創造力に期待します。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
1 本校では、生徒が遅刻した場合（通院などの特別な場合を除く）、その日の放課後に居残り指導（書写500字または1,000字＋反省文200字＋生徒との話し込み）を行っております。これにより遅刻は減少傾向にあります。これらの指導について、ご理解いただけますか。	66.9%	25.5%	6.0%	1.6%	92.4%
2 本校では、生徒が髪を染色した場合、是正までの期日を約束し、それが守れなかった場合に帰宅指導を行っております。これにより、著しく染髪した生徒はいなくなりました。これらの指導について、ご理解いただけますか。	71.8%	20.8%	5.3%	2.1%	92.6%
3 府立高校では、携帯電話の校内での使用は『原則禁止』となっておりますが、本校では休憩時間などでの使用を含め、校内での使用そのものは禁止していません。この点を踏まえ、授業中に携帯電話を使用した場合（鳴った場合を含む）は、「預かり指導」を行っております。これらの指導について、ご理解いただけますか。	79.8%	18.4%	1.1%	0.6%	98.2%

【学校の受け止め方（分析）】

本校で行っている遅刻、頭髪、携帯電話の指導について、どの指導内容についても肯定的な回答が92%以上であったことより、非常に多くの保護者の皆様が本校の指導にご理解をいただけていることがうかがえます。

これを受け、これらの指導を継続的に展開するとともに、より一層多くの保護者の皆様にご理解いただけるよう、より良い指導方法を模索し、指導の経過や経緯についてもご連絡・ご報告することを心掛けていきたいと感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

遅刻や違反行為については、当然の規範としてしっかりと定着するまで、現在の指導を継続すること、より良い指導法を考えていくことが必要だと思っています。指導に際しては、もちろん、ペナルティを課することが目的ではありません。現在も心がけていることですが、ペナルティを課したから“はい、これで終わり”ではなく、時間を惜しまずしっかりと説諭を行い、なぜ指導を受けているのか、きっちりと納得させること、安易な指導にならないことが不可欠だと認識しています。

ペナルティがなくても、生徒自らが自分を律し、また、自分の成長を考えて、時間を守りルールを守るといった前向きなことができるように、今後も丁寧な指導を続けていきたいと考えています。引き続き、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2 学校行事・部活動のさらなる充実・活性化

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
3	あなた自身は、文化祭、体育祭、遠足などの学校行事に自主的・積極的に参加していますか。 (全学年 肯定的回答率平均 85.5%)	1年	48.5%	38.4%	10.4%	2.6%	86.9%
		2年	52.9%	34.5%	8.2%	4.3%	87.5%
		3年	46.7%	35.4%	12.1%	5.8%	82.1%

【学校の受け止め方（分析）】

全学年での肯定的な回答が約 85.5%となり、H30 年度 85%、H29 年度 85%、H28 年度約 87%と概ね横ばいで推移しています。例年、やはりクラス目標を持って自主的な活動を展開できていたクラスもあれば、どうしても人まかせになってしまうことで、最後まで一体感を持った活動が出来ないクラスもあります。例えば、あるクラスでは放課後に全員が教室で準備をしていたり、他のクラスではクラス代表だけで教室に残り、今後の準備計画を立てていたり、また他のクラスでは、クラス内で協力する意識がやや不足していたせいか、準備をするために放課後に残る生徒が少なく、思うように準備が進まなかったりします。

どのようにして準備を進めていけばよいのか戸惑うクラスが毎年ありますが、教員の助言やサポートを受けながらも、与えられた時間の中で、自分たちで考えながら準備をしていくことが大切であると考えています。このように、生徒が自らの力で学校行事をつくる機会を多く設けることで、「自主性」を引き出し、「自分たちの学校行事は、自分たちでつくる」という意識を育てたいと考えています。

アンケートの数値に“変化”として表れていませんが、今年度は体育祭や文化祭の準備段階の放課後に、生徒たちの様子が活発であったように感じました。多くの生徒が残って準備をしているクラスもあり、少しずつ生徒たちの「自主性」は高まっているとも捉えられます。

近年、生徒会執行部の活動が活発化し、様々な活動が増えてきました。多くの生徒や教員、PTA、後援会等に生徒会執行部自らが協力を依頼し、実現に至ることができました。結果として、行事の活性化につなげることができたとともに、生徒の主体的な活動の場にもつながったと思います。

否定的な回答をしている生徒が、依然として 15%程度いることも事実です。学校行事に対する生徒の意識は年々向上しているものの、学校行事に前向きに参加できていない生徒がいることについては、課題として認識しています。生徒自身の学校行事に対する「好き・嫌い」はあるでしょうが、クラスなどの集団の中で他者と協調しながら、自主的かつ積極的に学校行事に取り組もうとする姿勢を育むことも、学校行事の教育的意義の一つですので、それを達成できるための働きかけをしていかなければならないと感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校行事を通して人間的に成長することが、学校行事を行ううえでの一番大切にしたい目標であると考えています。

学校行事は、「高校生活の楽しい思い出をつくる」という役割も大事ですが、学校行事という貴重な体験や活動を通して、集団で物事を進めていくために必要な協調性を知り、壁にぶつかったときの問題解決能力やコミュニケーション能力を磨き、他者の優しさに気づくといった、普段の学校生活だけでは育みきれない力や様々な気づきを、学校行事は与えてくれます。

近年は、体育祭・文化祭の「企画・運営」に携わる生徒を少しずつ増やしていくことを進めています。体育祭では、体育委員や運動系クラブ員を積極的に活用していき、文化祭では文化委員をはじめ、各種委員会に所属する生徒と、文化系クラブ員を積極的に活用していくようにしました。これらの生徒たちには、クラス活動等の中での役割はありますが、学校行事の全体に関わる部分についての企画や運営にもどんどん関わっていただこうと考えています。そして、その中心となっている生徒会執行部と連携して進めていくといった生徒同士のつながりが、生徒の自主性を引き出していく「しかけ」になると考えています。

このように、様々な集団に所属する生徒たちの連携が、これまで以上に発展していくことで、生徒の「自主性」の育みを促し、生徒の皆さんが人間的に成長していくための糧になることを願っています。そして、いずれかは、教員の手を離れて、学校行事の準備・運営の大部分を生徒たち自身で行えるようになることが、最大の目標であると捉えています。

今後とも、生徒の皆さんが、ひとりの人間として成長できるよう、我々教職員が一丸となって全力でサポートしていく必要があると考えています。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
4	本校の部活動は活発だと思いますか。 (全学年 肯定的回答率平均 70.1%)	1年	28.6%	42.4%	19.8%	9.2%	71.0%
		2年	28.1%	40.0%	18.5%	13.5%	68.1%
		3年	30.0%	41.4%	18.1%	10.5%	71.3%

【学校の受け止め方（分析）】

数値だけを追いかければ、肯定的な回答は約70%で、昨年度の80%、一昨年度の77%となっており、さほど大きな変化はないと捉えています。部活動の加入率は今年度55.7%、H30が48.9%、H29が46.2%と直近3年間では上昇傾向にあります。(5月時点での数値)

「部活動が活発かどうか」という質問に対しての生徒の判断基準は、活発なクラブの様子を、見たり・聞いたり・感じたりしているかどうかだと思います。自身が所属するクラ

ブ活動に一定の満足感を得ている場合は、その活発な活動を見たり・聞いたり・感じたりしているので、「活発である」と答えるでしょうし、クラブに加入していない生徒であっても、クラブに加入している友人やクラスメイトの精力的な活動を見たり・聞いたり・感じたりしていれば、「活発である」と答えるかもしれません。

「活発でない」と答える生徒の多くは、そもそも本校の部活動に興味・関心がなかったり、精力的に部活動に励んでいる友人が身近にはいないので、クラブ活動の様子を見たり・聞いたり・感じたりしておらず、そのような答えになるのかもしれません。

いずれにせよ、「本校の部活動をより活発にさせるためには」という根本的な議論も当然必要ですが、同時に、現在、活発に活動しているクラブの様子を、多くの生徒に知ってもらうような取組みも重要だと感じています。その取組みを進めることで、クラブに加入していない生徒も、クラブ活動の様子を見たり・聞いたり・感じたりすることができるのではないかと思います。

毎年4月に1年生を対象に行っている「新入生クラブ紹介」では、生徒会執行部と各クラブ、PTAが協力して作成した、『クラブ紹介冊子』を配布しています。カラー両面刷りで、写真も多く盛り込まれ、クラブを知ってもらうためには、非常に有効な冊子となっています。

クラブ員には、自身のクラブ活動に対する満足度についても、毎年調査しています。（以下「満足度調査」という。）これは、「量」だけではなく、「質」の部分についても、見ていくことが重要ではないか、という考え方からです。その調査の結果、今年度も約86%の部員が、現在の部活動について肯定的に捉えてくれていることがわかりました。

加入率は、決して高くないものの、実際の活動をしている部員の大多数が、この調査により、日頃の活動について満足してくれていると考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

クラブ部員の活動の様子を、他の多くの生徒に知ってもらうための手段として、始業式・終業式での表彰や、ホームページ上でのクラブのブログ・SNSの活用などが挙げられます。また生徒会執行部やクラブ員、部顧問が壁新聞で試合予定・結果の掲示を行うことも有効でしょう。また今年度は、文化祭の前日のオープニングセレモニーにおいて軽音楽部とダンス部にパフォーマンスをしてもらい、多くの生徒に頑張っているクラブ員の存在を知ってもらうことができたと思います。

このように、他の部で頑張っている生徒の活動に関心をもてるような機会を、生徒の皆さんに提供できるような取組みを推進していきたいと思っています。

また、クラブ部員の満足度が向上するような、活動環境の整備や物品等の支援も随時行っていきたいと考えています。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
8	本校の文化祭、体育祭は生徒が自ら進んで取り組んでいると思われませんか。	47.0%	43.9%	7.6%	1.5%	90.9%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的な回答が約90%となり、H30年度の約90%、H29年度H30年度の90%と比較しても横ばいの結果となりました。

今年度も、非常に多くの方が学校行事に訪れていただきましたが、これも保護者の皆様の学校行事への関心が、高まってきている表れではないかと思えます。また、PTA等による活動（体育祭での『後援会賞』、文化祭で、生徒会執行部とコラボレーションした『スイコウ賞』など）も一助となり、より多くの保護者の皆様に学校行事に触れて頂けるようになりました。その結果として、生徒の頑張っている姿が今まで以上に伝わるようになり、「そう思う」との回答が多く寄せられていると考えています。

生徒がイキイキと活動している姿と、学校が全体として盛り上がっている雰囲気、生徒が自ら進んで取り組んでいると捉えて頂くための指標となると考えていますが、それらをさらに活性化するためには、校内で生徒が自主的な取り組みができるように、教職員一人ひとりがよりの確なアプローチをするとともに、学年、担任、分掌といったチーム単位で支援できる体制が重要だと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校行事を活発にしていくキーワードは「自主性」であると考えています。そして、生徒が自らの力で学校行事をつくっていくという意識を育むことが、さらなる学校行事の活性化を促すポイントだと思います。

また、行事の様子を保護者の皆様にしっかりと情報発信していくことで、生徒・学校・保護者を繋ぎ、それぞれが関わり合いながら学校行事をつくっていくという意識もまた学校行事の活性化には大切なことだと考えています。

近年、めざす学校像の一般的な考え方の一つとして、「開かれた学校」という言葉がよく使われるようになりました。学校を、物理的にも意識のうえでも閉鎖的な空間にするのではなく、地域にも家庭にも開かれた学校にしていくことで、学校・地域・家庭が連携しながら子どもたちを育てていきたい。そんな思いが「開かれた学校」という言葉には込められているのではないかと思います。

吹田高校が、より「開かれた学校」になっていくためには、まずは生徒が過ごしている学校の様子が実際に見えること。そして、保護者の皆様が、その「開かれた雰囲気」を肌で感じてもらえるようにすることが重要だと思います。

これらを実現するために、まずは、生徒たち自身が充実していると感じられるよう、「自主性」を引き出せるような支援が必要ですし、保護者の皆様には、実際に体育祭・文化祭を見に来ていただけるよう、丁寧なご案内に努めるとともに、メルマガやホームページ、SNSなどをさらに活用して、生徒たちのイキイキとした表情や言葉などのリアルな学校生活の

様子をご家庭でも見て、感じていただけるよう、「丁寧な情報発信」を心がけたいと思っています。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
9 本校の部活動は、活発だと思われませんか。	32.2%	50.0%	13.5%	4.3%	82.2%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的な回答が約82%で、H30年度の83%、H29年度約80%と比較しても、概ね横ばいとなっています。本校の部活動は運動系15、文化系13、同好会1の合計29種類あります。競技の特性や部員の状況を踏まえながら、個々のクラブの活動方針に即して部活動が実施されており、平日・休日を問わず、練習や試合をしているクラブもあれば、「平日のみ」や「週2日」というような活動形態をとっているクラブもあります。

こういった活動形態の違いがありますので、お子様がどのクラブに加入しているのかによって、保護者の皆様の感じ方も違ってくるように思いますが、その中で、昨年度に引き続き、肯定的な回答をいただき、ありがたく思います。

一方で、クラブ加入率から見ても、少し向上したことを嬉しく思います。1年生のみのクラブ加入率で見ると約56%であり、H30年度の約49%、H29年度の約46%と比較しても、上昇傾向にあると言えます。ただし、1年時には、毎年ある程度多くの生徒が入部はするものの、途中で辞めてしまう生徒がいることも実情です。その結果として、年度当初の加入率が年間通して維持されるのが難しい現状にあります。途中で辞めることなく、現在も継続的に活動をしている部員は、それぞれの目標に合わせて、一生懸命取り組んでおります。

部活動に対する生徒の考え方も様々で、前向きに組みたいと考える生徒もいれば、「しんどいからしたくない」、「遊びたい」というように部活動に関心がない生徒もいます。その他のさまざまな事情で、部活動をする余裕のない生徒もいます。

こういった状況の中でも、学校としては可能な限り、部活動に参加し、その活動を通して、人間的に成長して欲しいと考えています。

課題としては、部活動を前向きに捉えていない生徒に対して、部活動の良さをどのようにアピールできるのか、そして、一度入部した生徒を卒業まで続けさせるにはどうしたらよいのか、具体的なアイデアを出すことですが、これは教職員だけでなく、部員と共に考えていくべきことだと認識しています。

また、保護者の皆様に対しては、本校の部活動の様子をよりよく知っていただけるような情報発信に努めていかなければならないと思っています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

多くの生徒が「入りたいな」と思える部活動づくりと、部活動の良さを継続的にアピールしていくことが大切だと感じています。

初めての高校生活で迷っている新入生の背中を押してあげられるようなアプローチを引き続き考えてまいります。

また、4月の新入生クラブ紹介や個別の部活動勧誘の時期だけでなく、年間を通して定期的に部活動参加への呼びかけを継続していきたいと考えています。部活動の情報発信についても、メルマガやホームページ、クラブのブログ等をより一層活用しながら、保護者の皆様にも部活動の様子をお伝えしていきたいと思ひます。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

3 教育相談・支援教育の充実

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
5	本校では保健室はもとより、「みかんルーム」(教育相談室)を設置したり、スクールカウンセラーによる相談などに取り組んでいます。あなたは、本校に悩みを相談できる場(先生や部屋)があると感じていますか。 (全学年 肯定的回答率平均 68.0%)	1年	22.3%	41.1%	18.9%	17.7%	63.4%
		2年	28.4%	42.0%	14.4%	15.2%	70.4%
		3年	31.1%	39.1%	15.7%	14.0%	70.2%

【学校の受け止め方（分析）】

今年度、「学校に悩みを相談できる場がある」と回答した生徒は、1年生が63.4%、2年生が70.4%、3年生が70.2%であり、平均すると68.0%の生徒で、昨年度と比較すると、3.5ポイント増加しています。

教育相談・支援教育については、担任を中心とした日常的な相談体制に加え、月曜日から金曜日までの昼休みと放課後、「みかんルーム（教育相談室）」に保健部担当教職員が詰め、生徒が気軽に相談ができる体制を築いてきました。

また、緊急の際には、いち早く、いつでも相談に乗れる体制を養護教諭中心に常時設定してきました。本校教職員以外にもスクールカウンセラーが定期的に来校し、生徒・保護者・教職員の面接、スーパーバイズ（教育相談・支援教育を総合的に運用する役割）、コンサルテーション（専門的な診断・鑑定）に当たってもらっています。

近年、みかんルーム来室者・相談件数も増え、生徒の皆さんの心身の健康の充実に役立っていると感じており、引き続きさらなる充実に努めたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

安全で、安心して学ぶことができる環境づくりが、とりわけ近年の学校においては必要不可欠なものという意識が、ようやく社会的にも定着してきました。

生徒自らの持つ資質や能力を最大限発揮するために、教育相談・支援教育の果たす役割は、ますます大きくなってまいりました。

おかげさまで、本校の支援体制、支援に対する教職員の意識は極めて高く、安心して相談してもらえる環境を整えています。

今後もさらに、これらの実践を充実させ、生徒の皆さんが悩みをより気軽に相談でき、また、一歩進んで積極的に心身の健康を増進できるスキルを身につけ、学校生活を充実したものとしていけるよう努力していきます。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	肯定的 回答率
4 本校では、「いじめ」や「暴力」のない学校づくりに向けて、生徒が気軽に悩みを相談でき、安心して学校生活を送れるよう、保健室はもとより「みかんルーム」(生徒相談室)を設けるなど、きめ細かな教育相談体制の充実を図っています。このような取り組みは、これからもさらに充実させるべきだと思いますか。	81.4%	17.7%	0.6%	0.3%	99.0%
5 お子さんの心身の健康について、連絡・相談したいことがある場合、気軽に先生に相談でき(できると思われ)ますか。	29.7%	46.5%	19.4%	4.4%	76.2%

【学校の受け止め方(分析)】

今年度、99.0%の保護者の皆様が教育相談体制充実の取り組みを期待してくださっており、76.2%の方がお子さんの心身の健康について気軽に相談できると回答してくださっています。

教育相談・支援教育については、生徒の高校生活あるいは人生設計における多様なニーズや不安等に適切に答えることができるよう努めています。

担任を中心とした、すべての生徒への日常的な支援体制に加え、定期的な支援会議の開催、ケースによっては関係諸機関との連携を図りながら、特別委員会等の校内組織での支援を行ってきました。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを講師に招いてのケース会議や個別相談も継続して実施してきました。

近年、心身の発達に関わることで課題を有する生徒についても、関係諸機関と連携を取りながら生徒のニーズ、自己実現に向けたサポート体制の構築を図っており、校内特別支援サポート委員会において生徒の情報交換や支援の検討に努めております。

【来年度以降の指導の方向性(対応)】

基本的には、これまで同様、生徒たち一人ひとりの悩みや想いを真摯に受け止め、それぞれのケースに応じたきめ細かな対応を心がけたいと考えています。

また、より多くの教職員が多様な課題のある生徒にしっかりと寄り添えるよう、ケース会

議や職員研修、個別相談等の機会も継続して設定し、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていきたいと考えています。

加えて、社会状況の急激な変化に伴い、生徒たちの課題がより複雑化する現状を踏まえ今後もさらに、関係機関並びに保護者の皆様とも連携を深めながら、教育相談、支援教育の進化・充実に努めてまいりたいと考えています。

保護者の皆様には、今後も引き続き、お子様に関わってお悩み、お気づきのことがございましたら、お気軽に学校までご一報いただきますよう、お願いいたします。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

4 互いを認め合える集団づくり

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
6	本校は皆さんに、男女平等や性差別、障がい・障がい者に対する正しい理解など、人権に関して学ぶ機会を大切に提供していると思いますか。 (全学年 肯定的回答率平均 80.0%)	1年	29.7%	51.4%	14.7%	4.2%	81.1%
		2年	39.0%	43.2%	12.4%	5.4%	82.2%
		3年	35.9%	40.7%	16.0%	7.4%	76.6%
7	本校は、「いじめ」や「暴力」などいろいろな問題を見逃さず対応してくれていると思いますか。 (全学年 肯定的回答率平均 74.7%)	1年	30.0%	47.5%	15.2%	7.4%	77.4%
		2年	24.3%	48.2%	18.0%	9.4%	72.5%
		3年	30.0%	44.2%	15.9%	9.9%	74.2%
9	本校は、授業やLHR、講演会などの機会を通して、情報リテラシーを身に着けるような指導をしていると思いますか。 (全学年 肯定的回答率平均 81.3%)	1年	31.4%	54.0%	10.7%	3.8%	85.4%
		2年	27.4%	51.2%	14.7%	6.7%	78.6%
		3年	27.4%	52.6%	14.5%	5.6%	79.9%

【学校の受け止め方（分析）】

項目6に対する肯定的回答は、1年生81.1%、2年生82.2%、3年生76.6%であり、平均すると約80%で昨年度と同等の結果となりました。この結果は各学年で実施している人権HRの内容を生徒たちが受け入れてくれているものと考えております。しかし、依然として2割程度の生徒が否定的な回答をしているという課題については、今後も各学年や分掌などと協力し、人権HRのさらなる充実を図っていく必要があると考えられます。

項目7に関しては、肯定的回答が1年生77.4%、2年生72.5%、3年生74.2%であり、平均すると約75%でこちらも昨年度と同等の結果となりました。本校独自のアンケートによる実態把握や、その後の担任を中心とした丁寧な聞き取りに対して、一定の信頼は得られていると考えております。しかしながら、こちらの項目も2割程度の生徒が否定的な回答をしているという事実を踏まえ、全ての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、アンケートをより効果的なものにしていくとともに、日頃の生徒の様子に細かく目を配り、問題を見逃すことなく安心して過ごせる環境作りに努めたいと考えております。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学ぶ機会の提供につきましては、生徒が人権についてより学ぶ機会を充実させるためにホームルームや総合的な学習の時間を活用した取り組みを一層進めてまいります。また、温かい人間関係を形成するための基礎となるコミュニケーション力の向上についても、取り組んでいきたいと考えています。

「いじめ、暴力を学校は見逃さず対応しているか」については、生徒の小さな変化に気づけるよう、担任をはじめとした教員集団によって日常的に見守り、組織的な関わりをさらに深めてまいります。本校独自のアンケートも有効に活用しながら、その兆候の早期発見・対応に努めることで、生徒から信頼され、安心して過ごせる学校となるよう努力してまいります。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	肯定的回答率
7 本校では、すべての生徒の尊厳が守られ、基本的人権が尊重されるように、LHRに人権学習を組み入れたり、いじめの実態把握のために「生活と人権に関するアンケート」を実施しています。これからも、このような取り組みを進めていくべきだと思いますか。	63.2%	33.9%	2.2%	0.7%	97.2%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的回答が 97.2%であり、本校の人権教育についての取り組みを保護者の皆様にご理解いただき、ご支持していただけたものと受け止めております。全ての生徒が安心して学校生活を送っていただけるよう、今後も府教委のアンケートの「安全で安心な学校生活を過ごすために」に加えて、本校独自のアンケートを実施し、生徒の様子に細かく目を配りながら、何かあれば丁寧かつ迅速な対応に努めてまいります。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校として引き続き、いじめの防止、兆候の早期発見や対応に努めてまいります。いじめの兆候が見られる場合は、当該学年だけでなく、人権教育推進委員会や管理職などが関わり、学校全体の問題として丁寧かつ迅速に対応してまいります。また、本校独自のアンケートの内容、実施時期、回数に関しても改善に努めていき、さらに効果的なものにしていきたいと考えております。

人権HRに関しては、年間LHR計画に位置づけて全学年で実施し、生徒の発達段階に応じた、人権についての正しい知識と理解の育成に努めております。今後は、学級内での温かな人間関係づくりや生徒のコミュニケーション能力の向上をめざした取り組みも進めていきたいと考えております。

生徒に適切な人権教育を行うために、教職員が人権についての正しい知識を学び、指導力を向上させることが求められます。そのためにも、職員人権研修をさらに充実したものにし、

生徒の人権HRに役立つものにしていきたいと考えています。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

5 安全管理の徹底、校内美化の推進と外部機関との連携

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
8	あなたは日頃、学校で清掃するなど校内美化に努めていますか。 (全学年 肯定的回答率平均 71.6%)	1年	27.5%	49.8%	17.3%	5.5%	77.3%
		2年	26.8%	46.3%	19.5%	7.4%	73.2%
		3年	21.6%	42.9%	23.4%	12.1%	64.5%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
6	校内は、清掃が行き届いていると思われませんか。	15.5%	53.4%	22.9%	8.2%	68.9%

【学校の受け止め方（分析）】

今年度、「日頃清掃するなど校内美化に努めている」と回答した生徒は、1年生が77.3%、2年生が73.2%、3年生が64.5%であり、平均すると69.7%の生徒が日頃校内美化に努めていると回答しています。保護者の皆様では68.9%の方が「校内は清掃が行き届いている」と答えてくださっています。

創立70年目を迎え、歴史と伝統を積み重ねてきた本校ですが、校舎設備の老朽化が目立ってきたということは否めません。

そういう中で、日々の通常清掃に加え、定期・臨時の大掃除、清掃徹底週間、清掃担当の教職員と生徒による施設設備の安全点検、教職員、クラブ員、生徒会執行部によるクリーンキャンペーン、生徒保健委員による学校環境美化啓発活動等を継続して行ってきました。また、今年度も事務室技術職員や有志教員による校内清掃活動も頻繁に行っていました。安全点検で所見のあった箇所についても速やかに対応しております。これらの取り組みを通して、学校施設設備環境に一定の改善はあったと感じております。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

校舎設備老朽化の改善については、学校の努力だけでは困難な面もありますが、府教育庁にも引き続き計画的な整備を要望し、少しずつでも着実に整備していきたいと思っております。

同時に、生徒・教職員の一人ひとりが「自分の学校・母校」という意識を持ち、清掃に対

する意識を高めることが、「古いけれど、手入れの行き届いた清潔な学校」につながると考えています。自らの学習環境を清潔に保とうとする意識は、将来の社会生活を行ううえでも大切な意識であると考えます。今後さらに、汚さないこと、汚れやゴミには適切に対処するという意識の定着を図りたいと思います。自分たちの学校の美化は自分たち自身が責任を持って取り組むという意識を持てるよう、継続して指導していきたいと考えています。

今後も、生徒全員が参加できる学校環境美化活動をさらに工夫することで、保護者の皆様がいつ来校して下さってもきれいな学校であり、清掃の行き届いた環境で学校生活を送る喜びを生徒が感じられるよう、粘り強く取り組んでまいります。

引き続き、保護者の皆様にもご理解とご協力をいただければ幸いです。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

6 授業アンケートの活用と授業見学週間の定着 7 授業規範の確立と授業マナーの向上
--

■生徒へのアンケート

質問		学年	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
10	先生は、生徒の授業中の私語や勝手な行動を見逃さずにきっちりと注意していると思いますか。 (全学年 肯定的回答率平均 77.3%)	1年	25.3%	47.9%	15.7%	11.1%	73.2%
		2年	29.8%	48.6%	14.1%	7.5%	78.4%
		3年	35.0%	45.1%	13.9%	5.9%	80.2%
11	あなたは、授業中に私語や勝手な行動をすることなく集中して受けられていますか。 (全学年 肯定的回答率平均 83.0%)	1年	40.2%	38.2%	14.7%	6.9%	78.4%
		2年	36.5%	46.3%	12.5%	4.7%	82.7%
		3年	49.0%	38.9%	9.2%	2.9%	87.9%
12	本校のカリキュラム(授業科目の配置等)は、進路希望に応じて、コースや選択科目が選べるように配慮されていると思いますか。 (全学年 肯定的回答率平均 90.4%)	1年	45.2%	46.0%	7.5%	1.2%	91.3%
		2年	38.1%	51.2%	7.5%	3.2%	89.3%
		3年	46.0%	44.7%	6.4%	3.0%	90.6%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
10	本校では、年間2回(7月・12月)すべての教員を対象とした授業アンケートの結果分析や振り返り、また、教員間の授業見学や保護者への授業公開などを通じて、学校全体として授業改善の取り組みを進めています。これらの取り組みについて、どう思われますか。	58.3%	39.5%	2.0%	0.2%	97.8%
11	お子さんは、本校の授業内容に満足(わかる、興味が持てる)していると思われますか。	17.2%	55.9%	22.4%	4.5%	73.1%
12	本校のカリキュラム(授業科目の配置等)は、お子さんの進路希望に応じたコースや選択科目が選べるようになっていると思われますか。	26.9%	60.0%	11.4%	1.7%	86.9%

【学校の受け止め方（分析）】

8割程度の生徒が「授業規律は保たれている」と捉えてくれています。一方で、全学年を通じて約2割の生徒が「授業規律が保たれていない」と実感していることも伺えます。高校生活の基本は授業であり、どの学年・どの授業であっても授業規律が保たれている状態が望ましく、生徒の皆さんの意見は重く受け止めています。

また、約3割弱の保護者の皆様がお子さんは吹田高校の授業に満足していないと感じられていることが分かります。

一般的に、高校での授業はただ単純に楽しいだけのものではなく、充実感や達成感を得るためには生徒自身の努力が必要ですが、生徒に一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

そのため、教員の授業力の向上に向けては、質問10にあるような取り組みを実施し、精力的に授業改善に努めています。

しかしながら、少なくない皆さんから否定的な回答をいただいたことは、あらためて学校として真摯に受け止め、授業に興味をもたせる一層の工夫や、学習に対して不安がある生徒に対するさらなるケアが必要だと認識しており、早急に改善を図りたいと思います。

教育課程に関しては、どの学年においても9割以上の生徒がカリキュラムに満足していると捉えることができます。また、保護者の皆様におかれましても8割以上がカリキュラムに満足していると回答していただいております。一方で、カリキュラムと進路希望が結びついていないというご意見も少なからずございます。これらのご意見を真摯に受け止め、より良い教育課程を作り上げていくように尽力致します。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

生徒の皆さんに一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

今回の結果を踏まえ、すべての教員が自らの授業技術を磨く必要性をさらに強く自覚し、取り組むことは当然ですが、科目や教科単位で年間の到達目標を明確にして生徒に提示することを充実させ、総合的な授業力の向上に努めてまいります。

一方で、授業はまさに教員と生徒の共同作業であり、お互いが求められる役割と責任を果たすことで初めて「よい授業、興味を持て、分かる授業」が成立します。

授業規律の確立について、生徒の皆さんに自身の行動を見直すこと、必要な予習や復習をすることなどを、学校としても強く求めたいと思います。

保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、生徒が、学ぶこと、新たな知識を得ることの楽しさと大切さに気づくことができる授業やカリキュラム作成、引き続き学校をあげて取り組んでいきたいと思っております。

8 三年間を見据えた系統的な進路指導

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
13	本校で提供している進路に関する情報や進路ホーム ルームは、あなたが将来の進路を考えるうえで役立つ と思いますか。 (全学年 肯定的回答率平均 83.2%)	1年	31.2%	53.0%	11.9%	4.0%	84.2%
		2年	26.9%	52.6%	15.4%	5.1%	79.4%
		3年	41.2%	44.6%	11.2%	3.0%	85.8%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
13	本校では、お子さんの進路実現に役立つ情報提供が適切に 行われていると思われますか。	25.2%	49.8%	22.0%	3.0%	75.1%
14	本校では、お子さんの学力向上のための講習などが適切に 行われていると思われますか。	19.9%	53.9%	21.8%	4.4%	73.7%

【学校の受け止め方（分析）】

「進路情報の提供」について、約 75～80%の生徒と保護者の皆様が肯定的に回答しており、進路HRや各種ガイダンス、進路ニュース等の内容の充実に向けてきた成果が一定程度表れているものと受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

進路指導の充実に向け、お子様の入学から卒業までの3年間を見通した「吹田進路プログラム」の内容をさらに充実させ、科目選択説明会、進路HR、保護者説明会等の日程設定や順序にも留意するとともに、進路HRの内容の充実にも努めてまいります。

「進路に役立つ情報提供」のため、これまでも発行してきた「進路ニュース」を引き続き発行してまいります。

また、「進路検討会議」を定期的に行うとともにその内容の充実にも努め、進路実現の妨げとなる諸問題（経済面、健康面等）の早期の掘り起こしに努めます。進路指導部・担任団に加え、副担任も含めた全教職員で迅速に対応し、一人ひとりの生徒に向きあうきめ細かな進路指導をさらに進めてまいります。

9 その他

【アンケート項目と集計結果】

■生徒へのアンケート

質問		学年	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
14	本校の先生は、自分たちのために一生懸命に指導してくれていると思いますか。 (全学年 肯定的回答率平均 83.4%)	1年	34.7%	48.2%	13.1%	4.0%	82.9%
		2年	31.3%	48.8%	11.9%	7.9%	80.2%
		3年	45.3%	41.9%	9.4%	3.4%	87.2%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
15	本校教職員は生徒のために、一生懸命に指導していると思われませんか。	31.9%	54.6%	10.6%	2.9%	86.6%

【学校の受け止め方（分析）】

教職員の指導に対して、生徒・保護者とも8割以上の方から肯定的な回答をいただいております。生徒・保護者の皆様に十分に理解を得られるように、教職員が生徒個々の特性をより深く理解し、人格のより良い発達をめざした適切な指導・援助に対して下記の2点について改善を検討する必要があります。

① 日常的な指導において、全教職員の共通理解のもと、生徒と教職員の相互信頼という基盤を築きながら、校内のルールやマナー、基本的な生活態度（時間・服装・挨拶・言葉遣い）を全教員で粘り強い指導をめざすこと。

② 生徒個々の特性を生かしながら、共同の集団や社会の構成員として適した資質や態度・能力の発達を図り、学校だけでなく様々な生活の中で強く正しく生きる態度や能力の発達を助成するため、具体的場面に即した指導をめざすこと。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

社会の移り変わりに伴い、教育課題もますます多様化・複雑化していく中で、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを見守り、道徳的な心情を育て、判断力・実践意欲を持たせるなど、道徳性を養うことが不可欠となっています。

今後とも、保護者・地域の皆様からのご意見やご要望をさらに真摯に受け止め、教職員が一丸となって教育活動に専心してまいります。お子様への指導に疑問やご質問がございましたら、小さなことでも結構ですので、お気軽にご連絡頂ければ幸いです。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		学年	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
15	あなたは、学校からの連絡を保護者にきちんと伝えていますか。 (全学年 肯定的回答率平均 74.8%)	1年	30.3%	39.8%	19.9%	10.0%	70.1%
		2年	36.0%	40.9%	13.8%	9.3%	76.9%
		3年	40.8%	36.5%	15.0%	7.7%	77.3%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
16	ご家庭では、お子さんと学校での出来事などについて話をされますか。	38.3%	40.4%	15.6%	5.7%	78.7%

【学校の受け止め方（分析）】

学校での出来事や連絡事項について、4名中3名の割合で保護者の方と生徒が家庭で話をされていると回答しています。「思春期」になると、ご家庭でほとんど話さなくなる生徒が多くなります。特に男子生徒はその傾向が強くなります。生徒たちが自立していく過程では、保護者への依存度は徐々に下がっていくことが自然であると言えますが、各ご家庭におかれましては「過保護」でもなく「放任」でもなく、「付かず、離れず さりげない」関わり方を心がけていただければ幸いです。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
17	あなたは、文化祭や体育祭、授業参観、懇談会、進路説明会などの学校行事に参加されていますか。	21.4%	45.1%	24.0%	9.5%	66.5%

保護者向けアンケートにおいて、文化祭や体育祭等、何らかの学校行事に参加された割合が3名中2名の割合であり、保護者の皆様の学校行事への関心の度合いが年々上昇傾向にあります。PTA役員の皆様からの働きかけもあり、ご多忙のところお子様の活躍される姿だけでなく、クラスやグループでの活動をご覧いただき、大変感謝しております。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
19	学校は、家庭への連絡や保護者との意思疎通(意見や要望を聞く機会)をきめ細かく行っていると思われませんか。	14.1%	53.0%	26.4%	6.5%	67.1%

学校から各ご家庭への連絡や保護者の皆様との意思疎通につきましても、3名中2名の割合で、きめ細かく行われているというご回答をいただきました。より多くの生徒・保護者の方に学校の様子や行事予定・緊急連絡等をご覧いただけるようホームページやTwitterを開設しております。また、原則毎週末にメールマガジンにて、今後の学校行事の予定・時間割変更や、学年からの連絡事項や配布物について情報を配信させていただいております。

現在、無断欠席、各種指導、学校内での怪我や成績など生徒に何かあった際には保護者の皆様にご連絡することを徹底しており、日頃より連携を大切にしていきたいと考えています。今後もホームページやメールマガジン、Twitterを活用した情報提供を充実させていきますので、引き続き、ぜひ忌憚のないご意見やご要望をお寄せください。

<生徒 15、保護者 16,17,19 について>

【来年度以降の指導の方向性(対応)】

学校で行う教育活動は、保護者の皆様にもしっかりとご理解をいただき、ご家庭においても共通認識に基づいてご協力・ご指導をいただくことで、より大きな成果につながるものがほとんどです。

学校といたしましても、学校での教育活動に、より一層保護者の皆様のご理解・ご協力を賜るため、進路指導、教科指導、テスト、行事等の情報提供をさらにきめ細かく行い、相互の意思疎通を丁寧に行ってまいりたいと思います。保護者の皆様で疑問や質問がございましたら、遠慮なくご連絡ください。

また、高校生になると様々な理由で、文化祭や体育祭等の行事で保護者の方が来校されない場合も多いかもしれませんが、是非とも学校にお越しただいて実際に生徒たちが活動している様子をご覧いただければ幸いです。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的 回答率
20	本校では、子ども未来専門コースでの保育園・幼稚園との連携をはじめ、吹田市立博物館等地域との連携、大学との連携、クラブ活動での中学校との連携、朝の挨拶運動などを積極的に図り「開かれた学校づくり」をめざした取組みに努めています。このような取組みは、今後さらに充実させたほうがよいと思われませんか。	63.7%	32.3%	3.3%	0.7%	96.0%

【学校の受け止め方（分析）】

開かれた学校づくりをめざした吹田高校の現在の取組みに対して、今年度も9割を越える保護者の皆様から肯定的な回答をいただきました。吹田高校は開校以来、地域に愛され、地域に開かれた学校をめざして教育活動を展開してまいりました。特にここ数年は、その取組みを強めています。

具体的には、大学や中学校、幼稚園や保育園といった地域の教育施設との交流をはじめ、吹田市立の博物館とも「高博連携」を結び、今年度も館長による講演等を実施しました。特に、こども未来専門コースの授業においては、実際に吹田市立の幼稚園や保育園において週1回の保育実習を行なっています。このような温かい支援に支えられて現在の吹田高校の教育活動がなされていることを、大変ありがたく思っています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

例年通り、今年度も「こども未来専門コース」で実習を終えた3年生が「実習体験発表会」を行いました。今年度で「こども未来専門コース」がなくなりますが、今後も地域の教育機関と連携を取り、ご理解とご協力を得たいと考えております。「地育地活」の言葉通り、吹田で育てていただいた吹高生が、将来は地元吹田で地域のために活躍できるようにしっかりと取り組み、また、吹田高校の生徒全員がこのような意識を持ち、開かれた学校づくりの主人公になれるように取り組みを充実させてまいります。

■生徒へのアンケート

質問		学年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	肯定的 回答率
16	あなたは、学校に行くのが楽しいですか。 (全学年 肯定的回答率平均 74.7%)	1年	32.0%	42.9%	12.1%	13.0%	74.9%
		2年	35.9%	42.3%	12.1%	9.7%	78.2%
		3年	38.3%	32.6%	13.0%	16.1%	70.9%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	肯定的 回答率
21	お子さんは、学校が楽しいと言っていますか。	33.4%	38.9%	20.8%	6.8%	72.4%

【学校の受け止め方（分析）】

学校が「楽しいですか」という、少し抽象的な質問でしたが、生徒、保護者の皆様とも7割以上の方が「学校が楽しい（と言っている）」という回答でした。一方で、2～3割の生徒が「（どちらかといえば）そうではない」という回答結果でもあります。この割合は昨年と比べて残念ながらあまり変わっていません。

「何か具体的に楽しくない原因があるからなのか？」

「ほかにもっと楽しい居場所があるからなのか？」

「家庭では、あまり学校のことは話題にならないからなのか？」

いろんなケースがあると思いますが、もしも楽しくない場所に毎日通わなければならない状況に陥っているとすれば、これはとても辛いことだと思います。とりわけ、具体的な原因がある場合には、できればお気軽にご相談をいただければ幸いです。

これらの生徒の気持ちを考えると、学校としての取組みにまだまだ改善の余地があることを、しっかりと受け止めたいと思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

ともすれば、社会全体として、刹那的な「その場限りの楽しさ」を求めがちな風潮もある中で、学校としては、ぶれることなく「授業が分かり、学習することに充実感があること、学校行事に積極的に取り組み達成感があること、部活動に一生懸命に打ち込み、一体感や爽快感が感じられること、友だちとの人間関係において温かみを感じ、友情を深めること等、これらのことを実現して『学校が楽しい』ものとなる」というメッセージを、生徒たちに発信し続けていきたいと思います。

学校には、様々な困難や事情を抱えた生徒もいますが、高校生という多感な時期に、学校という場だからこそ学び、身につけることができる、人生の中でも貴重な経験・体験を何よりも大切にできるよう、すべての一人ひとりの生徒がまっすぐに学校生活に取り組んでもらいたいと思います。

全教職員で、今回の学校教育自己診断でいただきました様々なご意見を今後の教科指導、生徒指導、進路指導、学校行事、部活動、教育相談等、すべての学校での取組みに活かし、一致協力して「計画」の完全達成をめざして日々の指導に取り組み、生徒・保護者の皆様の本質的な意味での満足度をさらに向上させるべく努力してまいります。

今後とも、吹田高校の取組みに対しまして、引き続き深いご理解とご協力をお願いいたします。